

INFO 01

学生・企業・地域がつながる「鳴尾ふれあいイベント2024」を開催！

10月27日(日) 9:30~15:30(予定) 小雨決行

開催場所 武庫女ステーションキャンパス(MSC)、鳴尾駅前公園 ほか



学生と企業による企画会議

学生と地元企業が協力して企画・運営する「鳴尾ふれあいイベント」が、今年は季節を秋に移して開催！毎年大好評のステージでは、学生たちによる音楽やダンス、書道のパフォーマンスをはじめ、地域の子どもたちも登場し会場を盛り上げます。ほかにも、鳴尾地域のみなさんと一緒に実施するワークショップや地域連携イベントなど、盛りだくさんの内容を企画中。年代を問わず楽しめる「鳴尾ふれあいイベント」へ、ぜひお越しください！



鳴尾ふれあいイベント2023の様子

INFO 02

武庫川団地「赤胴車のある広場」で赤胴車マルシェ開催！

10月20日(日) 10:00~16:00 雨天決行



可愛い動物が大集合のふれあい動物園やハンドメイドマルシェ、キッチンカーや地方名産などのグルメブース、体力アップチャレンジラリーやワークショップなど、子どもから大人まで楽しめるコンテンツが盛りだくさん！



主催：赤胴車マルシェ実行委員会

INFO 03

第69回武庫川女子大学文化祭を開催！

10月12日(土)・13日(日)



舞台発表や模擬店、野外ライブ、展示、キッチンカーなど、学生はもちろん、地域の皆様、子どもたち、高校生にも楽しんでいただけるイベントが盛りだくさん！ぜひご来場ください。



詳細・お問い合わせ先等は、二次元コードから各情報の関連ページをご覧ください。

ランチ 第9回 どこ行く？



串かつ まるまん

鳴尾・武庫川女子大前駅から徒歩約5分の場所に位置する串かつ店「まるまん」。店頭座っている愛らしい大きな「E.T.」のぬいぐるみが目印です。なんと120年も「まるまん」の看板を代々受け継いでいるという、この地で長年愛され続けている老舗。店主の「揚げたてを楽しんでもらいたい」という熱い思いが込められた串かつは、ネタにしつかりと味が付いており、こだわりの油で揚げ

られています。カリッとサクッと揚がった串かつは、甘みと旨味が絶妙なソースとの相性が抜群で、思わず笑顔になる美味しさです。店主おすすめのメニューは、「串かつ定食」780円、「へらかつ定食」820円、「ささみかつ定食」740円。テーブル席やカウンターのほか、座敷も完備されているので、気軽なランチにも、宴会にも最適な空間です。ぜひ一度、心温まる「まるまん」の味をご賞味ください！

私たちが取材しました！



(左から) 武庫川女子大学 竹村さん、木本さん、森川さん

読者サービス！ 「なるお通信」をご提示いただくと、「ドリンク1杯」をサービス。(2025年3月まで)

串かつ まるまん
西宮市鳴尾町3-4-10 TEL.0798-41-1923
【営業時間】月・火・木・金・土曜は11:30~14:00、17:00~22:00
(日曜・祝日は17:00~22:00のみ) 水曜休

阪神電気鉄道

武庫川女子大学
Mukogawa Women's University

なるおエリマネ

なるお通信 Vol.9
(2024年秋号)

「なるお通信 Vol.10」は
2025年春発行予定です。
お楽しみに！

発行 鳴尾エリアマネジメント連絡会
(株)エンリッジョン/(株)阪神ステーションネット/阪神電気鉄道(株)/(株)みなと銀行/
学校法人武庫川学院/(株)ライフインベーション/(株)ライフコーポレーション(50音順)
制作 (株)阪神ステーションネット 大阪市福島区海老江1-1-31 ☎06-6347-6601
※なるお通信に関するお問い合わせ・情報提供は阪神ステーションネットまで。
※記載の価格には消費税が含まれています。

NARUO
TSU-SHIN

※なるお通信のバックナンバーをご覧ください。



Facebook



X (Twitter)



Mukojoがある街を知る

NARUO TSU-SHIN

なるお通信

奥深い能の世界へと誘う西宮能楽堂



能『高砂』より



鳴尾エリアマネジメント連絡会の地域活性化への取り組みが評価され、「2022年度グッドデザイン賞」を受賞しました。



GOOD DESIGN AWARD
2022年度受賞

約700年前の室町時代に成立し、世界最古の伝統芸能とされる「能」。数ある能の中で“最もおめでたい曲”とされる「高砂(たかさご)」の物語には鳴尾が登場するなど、実は能と鳴尾の土地は深い関わりを持っています。そんな縁起のいい土地に2017年に誕生したのが西宮能楽堂です。これまでの能楽堂のカタチにとらわれず、日本の伝統芸能や地域の魅力を国内外に分かりやすく発信する能楽堂の姿に迫ります。

女子総合大学で学生数日本一
Mukojoがある街を知る

なるお通信とは…

鳴尾エリアマネジメント連絡会が発行する、鳴尾に住む人も、住んでいない人も、思わず出かけたくなる鳴尾の魅力を発信するミニコミ誌

奥深い能の世界へと誘う西宮能楽堂

能楽師

うめわか もとのり

梅若 基徳さん

西宮能楽堂の創立者で、日本の伝統芸能の魅力を広く発信している。室町時代から続く名門・梅若家に生まれ、国内・海外公演にも出演。



観て触れて学べる能楽堂から国内外に魅力を発信

日本が世界に誇る伝統芸能である能は、約700年前から一度も途切れることなく受け継がれ、文楽や歌舞伎、日本舞踊など、様々な舞台芸術に影響を与えてきました。そんな先人たちが培ってきた能の魅力を、鳴尾の地から発信しているのが西宮能楽堂です。

檜香の能楽堂は舞台と客席の距離が近く、演者の息遣いや装束が擦れる音までもが聞こえる臨場感が魅力の一つ。演者と観客が一体となり、舞台を創り上げる圧倒的なライブ空間を体感することができます。天井付近には、柔らかな太陽光が降り注ぐ天窓を設置。時間の経過とともに変化する舞台の表情を楽しめます。上演中はプロジェクターでセリフや図解を流すなど、今までの能楽堂になかった設備で、難しいと敬遠されがちな能をできる限り分かりやすいものにしようと取り組んでいます。

客席からの鑑賞だけでなく、実際に舞台へ上がり能に触れられる体験会も積極的に開催。能の基本動作である「すり足」を学んだり、普段手にする

ことのない能面や装束を付けたりと、「参加して楽しむ」体験会を通して奥深い能の世界へと引き込まれていきます。

「まずは地域の人たちに西宮能楽堂の存在を知ってもらい、足を運んでもらうことが第一歩」と話す梅若さん。能だけでなく三味線や日本舞踊、書道などを学べる「子ども教室」や西宮市の名産とコラボした「和ろうそく能」など、能以外の伝統芸能や地域の魅力を発信する体験会も行っています。能楽堂を拠点に地域を、そして日本文化を盛り上げるため、今後も様々な活動を展開していきます。



「子ども能楽教室」では能の仕舞(しまい)を学び、その成果を発表会で披露。また舞台上での体験会は外国人観光客にも人気です。

『能』と『能楽』の違いはなに？

歴史上の人物を題材とし、悲劇が多いのが「能」。庶民の日常生活を面白おかしく描いた「狂言」と「能」の2つで構成されるのが「能楽」です。

『能面』にはどんな種類があるの？

大きく分けると「翁面(おきなめん)」「尉面(じょうめん)」「男面」「女面」「鬼神面(きじんめん)」「怨霊面(おんりょうめん)」の6種類。演者の顔と面の一体感を出すため、あごが出るくらい小さめに作られているんですよ！



能楽堂にはなぜ『松』が描かれているの？

「松」には神仏が宿るといわれています。かつて神仏に観せるために松の前で能を舞っていたことから、本来客席側にあるはずの松を鏡のように映したものが舞台の松なんです。だから“背景”ではないんですよ。

初心者でも楽しめる『能』の見どころは？

まずは伝統芸能の「雰囲気」や演者の「気迫」を感じてみてください！西宮能楽堂では上演前に物語や表現方法を解説しており、初めてでも安心してお楽しみいただけます。

公演・イベントスケジュール

中国古箏と能「吉野静」
千年の響きとともに
2024年10月5日(土)／14時開演

能「須磨源氏」天界の貴公子
2024年11月2日(土)／14時開演

講談「平安時代のヒーロー安倍晴明」
2024年12月7日(土)／14時開演

新春能「土蜘蛛」伝説の刀剣
2025年1月12日(日)／14時開演

「桂ひろばの落語の入り口」
2025年2月1日(土)／14時開演

能「百萬」女曲舞の芸
2025年3月1日(土)／14時開演

第4回西宮・伝統芸能のタベ 能「絵馬」
2025年3月29日(土)

そのほか、お子様向けのイベントや体験講座を随時実施中！

詳細は西宮能楽堂公式サイトから……

西宮能楽堂



鳴尾の魅力を発信する地域交流イベントにも参加

鳴尾エリアマネジメント連絡会と学生が共同で企画・運営している「鳴尾ふれあいイベント」にも参加しています。昨年は「鳴尾まちあるきクイズ」の対象スポットとして、地域の方々に能の魅力をお伝えしました。

武庫女の先生に聞く
interview

貴重な民俗・生活資料や美術品を中心に展示している武庫川女子大学附属総合ミュージアム。その館長である横川先生に、狂言の小道具「扇」の役割について教えていただきました。



武庫川女子大学
横川 公子 先生

武庫川女子大学
附属総合ミュージアム館長
生活環境学部教授・生活美学研究所・女性研究者支援センター業務を経て現職。西鶴作品に描かれた服飾の諸相から現代の食玩まで、生活文化の近代化について研究。

様々な表情を作り出す狂言に欠かせない存在

大学構内では、今年も“能楽部へのお誘い”のポスターが見られる時節になりました。もう10数年も前になりますが、卒業研究で狂言の小道具を取り上げた部員の学生がいました。能と狂言は異なるし、それぞれの歴史もありますが、能狂言とも云われます。小道具を取り上げるようになったいきさつは定かではありませんが、知り合いの狂言師に頼んで、半年余り、取材をさせていただきました。

狂言の小道具の代表格は扇です。その他、笠や法螺貝(ほらがい)、小刀、竹杖、鉞や鋤など多種ありますが、いずれも単純な道具が効果的に用いられ狂言独特の雰囲気を出しています。

扇は、登場人物が必ず携帯し、広げて杯や筆といった「物」にしたり、身を隠したり、のぞき見をしたり、扇1本で大扉を開けたり、また時には演者の心情を細やかに表し、風・波といった「自然の様子」まで描写します。扇はすぐれ者の小道具で、象徴的な仕掛けとなります。

狂言の小道具としての扇は、しぐさと台詞によって構成される狂言という笑いの世界を、一瞬のうちに了解させてしまう、なくてはならない仕掛けなのです。



西宮能楽堂

西宮市鳴尾町3-6-20
TEL.0798-48-5570
【営業時間】9:00～21:00／不定休



Instagram



YouTube